

東京（ドンキン）義塾と慶應義塾

嶋尾稔

2022年11月19日-20日にベトナム・ホーチミン市のフルブライト大学で開催された東京（ドンキン）義塾に関するシンポジウムにおいて「Keio Gijuku 1906」と題する発表を行った。本稿はシンポに提出したペーパーの日本語草稿に若干手を入れたものである。もともとベトナム人研究者を対象に記述したものであるので、日本人には常識となっているようなことも説明している。

ロックハートとドゥワイカーが編纂した『ベトナム歴史辞典』は「東京（ドンキン）義塾 Đông Kinh Nghĩa Thục」について次のように記述している[Lockhart&Duiker 2006: 112]。

20世紀初頭のベトナムで愛国的な知識人たちによって創設された学校。日本で福沢諭吉が設立した慶應義塾に倣って愛国的学者であるルオン・ヴァン・カンによって1906年に作られた。民間の経済支援を受け、ベトナム社会に西欧の思想を導入することを目的とした。教師や支持者のなかにはズオン・バー・チャックやファン・チュー・チンが含まれていた。国語表記の文字としてクオックグーと呼ばれるローマ字の使用を促進した。地理学、数学、科学のような近代的な科目に重点を置いた。

この教育組織は革命ではなく改良を志向していたが、学校の活動には革命の信奉者も加わっていた。フランス当局は学校創設者の意図に疑念を抱き、1908年の反植民地的騒乱に関与したと非難し、数か月で学校を閉鎖した。指導者の多くは投獄され、プロコンドール島に送られた。

東京（ドンキン）義塾が慶應義塾をモデルにして作られたという見解は世界のベトナム研究の定説となっている。しかし、そのことを直接的に証明する根拠は存在しない。チャン・フイ・リエウは、東京（ドンキン）義塾の設立声明にそのことが書かれていると記しているが、その声明書自体は見つかっていない[Trần 1956 ; 荒川 2002: 84]。ここでは探求の方向を変更してみる。1906年にファン・チャウ・チンが来日したときに、ファン・ボイ・チャウとともに東京の学校を見て回ったことが知られている。そこに慶應義塾が含まれていたか否かは不明である。もし仮にチンとチャウが慶應義塾を訪れていたならば[Vinh Sinh 2009: 18]、何を目にし何を耳にすることができたか？1906年の慶應義塾について、東京（ドンキン）義塾の四班（教育班、財政班、著作班、鼓動班）に対応する活動内容について素描を試み、その慶應義塾史上の位置について検討し、東京（ドンキン）義塾と慶應義塾の影響関係をよりよく検討するための素材を提供することとしたい。

まず、慶應義塾関係者の東京（ドンキン）義塾に関する論考を見ておこう。1967年に中国近代史研究者である故和田博徳教授は『抗仏80年史』の中国語訳に依拠して、慶應義塾

と東京（ドンキン）義塾の関係について指摘した[和田 1967]。和田教授はベトナムの知識人に対する梁啓超の影響に注目し、梁啓超が横浜で発行していた「新民叢報」にたびたび福澤諭吉、慶應義塾について論じた記事が掲載されているのをベトナム知識人も目にしたであろうと推測した。また、1903年に清朝の奏定学堂章程の注解「学務綱要」が福澤について肯定的に言及しているという情報も記している。何より重要なことは三田演説会が東京（ドンキン）義塾の演説会に影響を与えた可能性に言及したことであろう。和田教授はベトナム語を解さず東京（ドンキン）義塾の具体的な活動について十分な注意を払っていない。

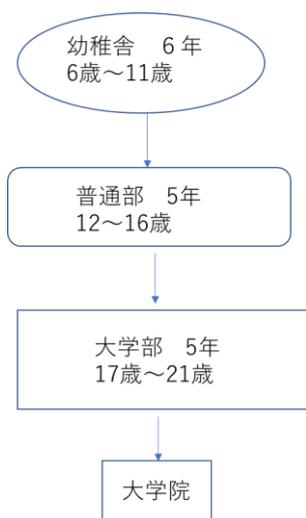
故川本邦衛教授は、日本においてベトナム語を用いて本格的なベトナム研究を行った最初の研究者である。川本教授は、ベトナム独自の詩と政治の関係に注目した。東京（ドンキン）義塾の活動内容を紹介し、単なる演説会を開催しただけではなく、韻文朗詠による宣伝を重視したことを指摘した [川本 1987]。また、ファン・ボイ・チャウの「海外血書」続編にルソーと並んで福澤を目標とすべきことが述べられていることを紹介し、それをチャウによる東京（ドンキン）義塾の教員たちへのメッセージであろうと推測した。

荒川研氏は川本教授のもとでベトナム研究を行い、その後ベトナム・ビジネスの先駆者となった。実業の傍ら研究活動も継続し、東京（ドンキン）義塾と慶應義塾の関係についても探求を行った。荒川氏はチンが東海散士『佳人之奇遇』をベトナム語訳したことに接点を求めた[荒川 2002]。ユニークな視点ではあるが、十分な根拠とはなっていない。福澤が朝鮮人民族主義者金玉均を庇護したことはよく知られており、『佳人之奇遇』も金玉均に同情的な記述をしているという指摘であるが、オリジナルの『佳人之奇遇』に福澤は登場しないし、チンの翻訳は金玉均が登場する部分は扱っていない。チンがこの作品を訳したのはヨーロッパ滞在中であり、主人公のヨーロッパでの活躍にわが身を重ねていたのではないかと思われる。この時点でチンが金玉均に関心を持っていたということは難しい。

以下、教育、財政、著作、演説の順に 1906 年の慶應義塾の諸活動とその歴史的背景についてみてゆくことにする。

1 教育

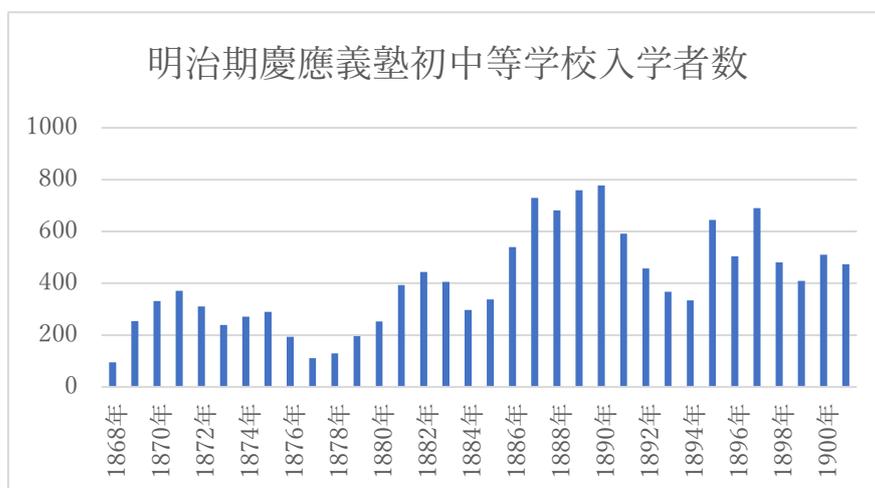
1906 年時点における慶應義塾の学校制度の軸は以下のとおりである [慶應義塾史事典編集委員会編 2008: 843]。

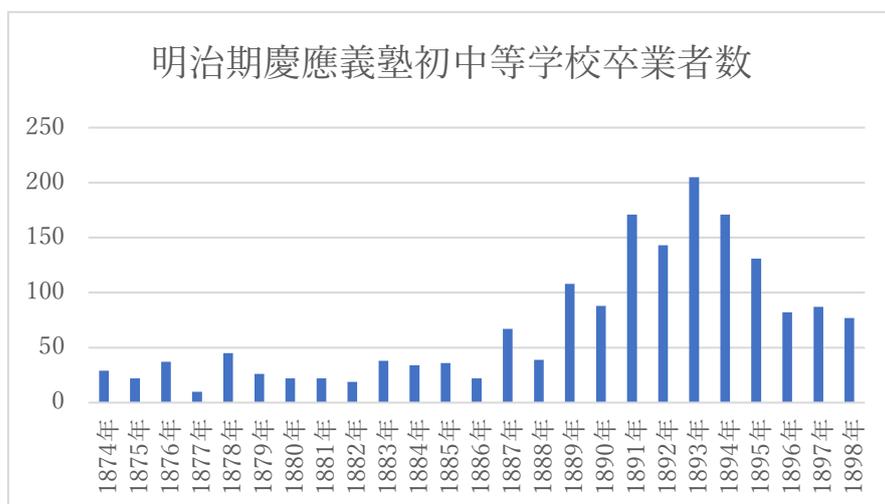


1900年に福沢諭吉が他界したのち、慶應義塾は大きな変化を遂げた。初等中等教育中心の学校から大学中心の教育研究機関に生まれ変わった。チンが来日した1906年には大学院が設立された[慶應義塾編 1960: 612-620]。

慶應義塾は本来蘭学塾であったが、幕末に蘭学塾から英語塾に転換した。福沢諭吉が、戊辰戦争中も英書講読を続けていたという逸話が伝えられている。福沢は三度欧米にわたっているが、三度目の渡米の際に大量の英語教科書を購入して持ち帰った。それらの英語教科書の講読が慶應義塾の教育の中心となった。当初はアメリカに倣った7年生の初等中等教育が行われた[慶應義塾創立150年写真集編纂委員会編 2008: 27]。それに加えて別の初等教育の学校と高等教育の学校を作るが、それぞれ独立しており授業内容も重複していた。

19世紀後半の初等中等教育学校の入学者数と卒業生数の動きは以下のとおりである[慶應義塾史事典編集委員会編 2008: 820-823, 832]。入学者は80年代後半に700人を超え、平均で400人程度である。卒業生は90年代前半に200人を超えたが、その後減少している。



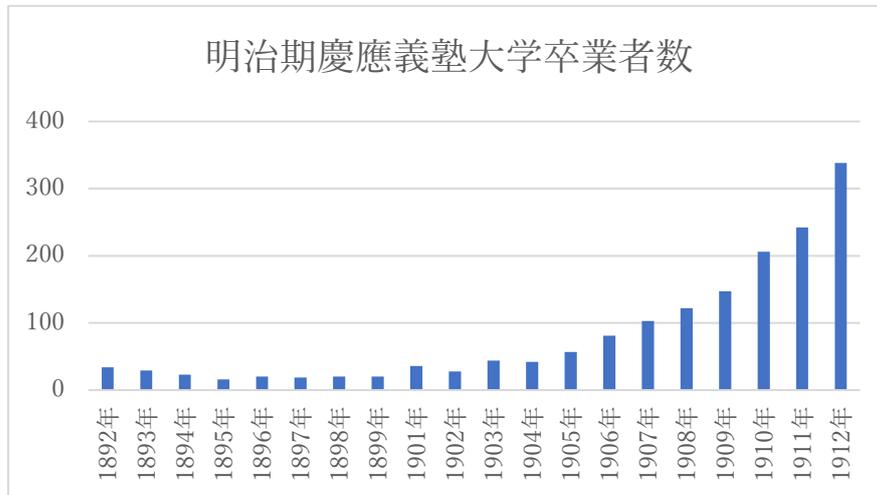


1886 年のカリキュラム（8 科—5 年制）は以下の通りである[慶應義塾編 1960: 442-443]。

学年	英書訳読（口授・講義）	英書訳読（輪講）	英語	数学	漢書
予科四番	地質学・動物学	Goodrich Samuel, <i>Peter Parley's Universal History</i>	spelling, reading, dictation	Horatio Robinson, <i>Progressive Practical Arithmetic</i>	漢書講義
予科三番	植物学・物理学	Quackenbos, <i>Elementary History of the United States</i>	reading, dictation, grammar	Horatio Robinson, <i>Progressive Higher Arithmetic</i>	漢書講義
予科二番	物理学・化学	Penrose, E.[Markham], <i>A History of England</i>	reading, dictation, grammar, exercises	簿記学 Todhunter, <i>Algebra</i>	漢書講読
予科一番	化学・生理学	Titler, <i>Universal History</i>	reading, dictation, grammar, exercises	Todhunter, <i>Algebra</i>	和文作文
本科四等	経済学	Guizot, <i>General History of Civilizations in Europe</i>	reading, dictation, geography, grammar, conversation, composition	Todhunter, <i>Algebra</i> Todhunter, <i>The Elements of Euclid</i>	和文作文
本科三等	法律学	Macaulay, <i>Warren Hastings</i> Spencer, <i>Over Legislation</i>	reading, geography, Cook's Glimpses part first, conversation, composition	Todhunter, <i>The Elements of Euclid</i> Wilson, <i>Solid geometry</i>	和文作文
本科二等	万国公法・論理学	Mill, <i>On Liberty</i>	reading, history, Cook's Glimpses part second, conversation, composition, Bacon's Essays	Wilson, <i>Conic Section</i> Todhunter, <i>Plane Trigonometry</i>	和文作文
本科一等	心理学・哲学	Mill, <i>Considerations on Representative Government</i>	history, composition, Cook's Glimpses part third, Rhetoric Shakespeare	Todhunter, <i>Plane Trigonometry</i> Todhunter, <i>Spherical Trigonometry</i>	

大学部は 1890 年に設立され、1898 年に諸学校を一貫校化した。大学部でも初期は英語の書物を読むことに力点が置かれた。20 世紀に入り大学部の教員養成のために欧米に留学生を派遣したが、その際にはドイツに留学する者も多く、その結果より総合的なカリキュラムが作られた。さらに学内に学会を創設するなど、教育のみならず研究も重視することとなった[慶應義塾編 1960: 269, 311-324, 594-600, 620-634]。

大学の入学者数（卒業生数）は日露戦争ごろから大きく伸びている[慶應義塾史事典編集委員会編 2008: 824]。



1904年の大学のカリキュラムは以下のとおりである[慶應義塾編 1960: 326-331]。

予科

予科第一年	英語 独語或仏語 歴史 論理 漢文 地理 数学 日本作文
予科第二年	英語 独語或仏語 経済原理 法学通論 歴史 心理・倫理又は数学 簿記 日本作文

政治科 随意科目を除く

第一年	政治学 憲法 経済史 貨幣・銀行論 運輸交通論 民法（総則、物権、債権） 刑法総論 独語或仏語
第二年	国際公法 行政法総論 財政學 経済学史 銀行論 農工経済学 民法 刑法各論
第三年	社会学 政治外交史 比較憲法 行政法各論 純正経済学 商業政策 社会問題 財政學 統計学 卒業論文

理財科

第一年	経済史 貨幣銀行論 運輸交通論 民法（総則、物権、債権） 独語或仏語 英語
第二年	経済学史 銀行論 財政學 農工経済学 民法 商法 英語
第三年	商業政策 社会問題 財政學 商工事情 統計学 国際私法 商法 英語 卒業論文

法律科

第一年	英米法総論 欧州法制史 憲法 刑法総論 民法総則 民法物権編 民法債権編 民法親族編 独語或仏語 英語 研究科
第二年	刑事訴訟法 英契約法論 法理学 行政法総論 刑法各論 民法物権編 民法債 権 民法相続編 商法 国際公法 英語 研究科
第三年	民事訴訟法 羅馬法論 英会社法 行政法各論 商法 破産法 国際私法 英語 研究科

文学科

第一年	英語・英文学 哲学概論 心理学 教育学 国文学 国史 漢文学 独語或仏語
第二年	英語・英文学 哲学史 倫理学 心理学 教育学 国文学 漢文学 独語或仏語
第三年	英語・英文学 美学 倫理学 社会学 認識論 教育学史 教授法 教育行政 教 授演習卒業論文

福澤は商業教育を重視したが、それは一貫校には含まれず、1891年に別に商業学校を設立した[慶應義塾編 1960: 126 - 134]。それに先立って、1879年には塾外において簿記講習所の設立に尽力し、簿記の普及を推進している。また、東京商法講習所（1875）、神戸商業講習所（1878）、大阪商業講習所（1880）の設立を支援した[慶應義塾創立 150 年写真集編纂委員会編 2008: 37]。

東京（ドンキン）義塾は、中国経由の新学の知識とリセの科目とクオックゲー教育の組み合わせによって独自のカリキュラムを形成しており、欧米の学校を直接的な模範とした慶應義塾をモデルにしたとは言い難いであろう。

2 財政

19 世紀末から 20 世紀初頭の慶應義塾の収支は以下のとおりである[慶應義塾編 1969: 106-108]。

年次	収入	支出	差引
1898 年	31757	72840	-41083
1899 年	34268	83035	-48767
1900 年	40796	102695	-61899
1901 年	158030	54735	103295
1902 年	78909	70520	8389
1903 年	110343	79473	30870

1904年	127918	93648	34270
1905年	124972	99967	25005
1906年	153062	119918	33144

1898年に一貫校を設立してから数年は収入が伸びず赤字が続いた。そのようななかで教員養成のための留学生を派遣しつづけた。1901年には収入が増加し黒字に転換する。収支の内訳は不明であるが、おそらく学生数の増加による学費収入の伸びが大きく寄与しているものと思われる。

在学生数[慶應義塾編 1960: 267]

年次	幼稚舎	普通部	大学部	計
1897	121	837	84	2939
1898	75	611	209	2793
1907	368	829	1595	4699

慶應義塾は日本で最初に学費を徴収した私立学校である。1869年から学費を取っている。1906年時点で在校生が支払うべき費用は以下のとおりである[慶應義塾史事典編集委員会編 2008: 833-834]。

入社金 3円
 授業料 年間36円
 教場費 年間3円

ちなみに現在の学費は以下のとおりである。

入学金 20万円
 授業料その他 115万円

当時の貨幣価値についていくつかの断片的情報を見ておこう。

東京の米価 10キロ=1.362円（現在は4500円くらい）

「東京市内商品小売相場―大蔵省（明治26・大正12年）」『日本長期統計総覧』
 『小売物価統計調査』[小売物価統計調査 小売物価統計調査（動向編）年次 2021年 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口 \(e-stat.go.jp\)](#)

木村屋のアンパン 0.01円（現在200円 普通のアンパンは100円）

[森永 2008: 146-147]

農作年雇 37.33 円

「職種別平均賃金一日額（明治 18 年～大正 10 年）」『日本長期統計総覧』

教員の初任給 10～13 円（現在は約 20 万円）

[森永 2008: 395, 398]

[東京都人事委員会公式ホームページ | 初任給一覧 \(tokyo.lg.jp\)](http://tokyo.lg.jp)

熟練教員 初等前半 12～16 円 初等後半 18～20 円

[森永 2008: 443]

製造業労働者 8.19 円

[森永 2008: 438]

大工 約 1 円/日

[森永 2008: 446]

農業労働のみでは一年働いても払いきれない金額である。大工であれば 40 日の労働、初任教員の 4 か月分の給料に相当する。現在の慶應の学費と比べると安いと言えるが、万人に対して開かれた学校でなかったことは確かだろう。ギジユク（義塾）が Yishú（義塾）ではないことには注意が必要である。中国語の義塾は「旧時不取学費的私塾」（『漢語大詞典』）であり、東京（ドンキン）義塾の義塾もその意味で用いられている。

3 出版

出版に関して注目すべきこととしては、慶應関係者が設立した時事新報社から 1898～1901 年に『福澤全集』が刊行されたことである。近代的知識人の全集出版の嚆矢である。福澤の著作の需要の高さを示している。新文明の普及と封建思想の打破という福澤の思想の影響は死後も衰えることはなかったことが知られる。

とはいえ、慶應義塾自体は福澤の著作の出版に積極的に関わっていたわけではない。『学問のすすめ』や『文明論之概略』などの福澤の主要な著作は、福澤が個人的に出版していた。

慶應義塾の出版事業で重要なのは雑誌と新聞の出版である。1872 年に慶應義塾出版部を設立した（74 年に慶應義塾出版社と改名）。実用知識の普及のため 1876 - 78 年には雑誌『家庭叢談』（『民間雑誌』と改名）を刊行し、1874 年には中立派の新聞『時事新報』を発刊している。『時事新報』は 1875 年からは新設の時事新報社から出されるようになった。

20 世紀初頭の時点では慶應義塾自体は出版事業にそれほど積極的ではなかった*。ただし、明治初期に福沢諭吉が精力的に著作の出版を行っていたことをチャウなども知っていたのかもしれない。

*より正確に言えば、1900 年に慶應義塾から福沢諭吉の著した『修身要領』という小冊子が出版されている。また、チンがベトナムに帰国したあと、なぜか 1907 年以降に慶應義塾出版局から何冊かの教科書が立てつけに出版されている（1906 年以前では 1905 年に『海商法論』が出版されている）。しかし、チンが

慶應義塾の出版事業に関心を寄せたとは思えない。

4 演説

慶應義塾は 1875 年に三田演説館を建設しその後一貫して演説会の開催に力を入れてきた。1906 年には次のような演説会が行われていた（『三田演説会記録第二号』、『三田演説記事録』〔慶應義塾福澤研究センター編 1989-98〕）。

1 月 27 日午後 6 時開会 第 439 回

早谷幸作「社会主義ヲ駁シテ貧富懸隔・調和ヲ論ズ」

高松梅治「帝国大学教授ノ愚」

伊澤道暉「塾運発展ノ機」

阿部宇之八「本土ニ対スル北海道と台湾トノ財的關係」

山名次郎「尊工主義ヲ唱ヘテ工業社会ニ及ブ」

鎌田栄吉「専制ハ百害ノ源」

2 月 24 日午後 6 時 第 440 回

早谷幸作「人生之目的」

宮森麻太郎「故ハーン氏と其著書」

荻野萬之助「海外ニテ観察シタル日露戦争」

郭廷献「台湾土俗之話」

鎌田栄吉「研究心ヲ發揮スベシ」

4 月 28 日午後 6 時半開会 第 441 回

向軍治「思想を新にせよ」

佐原篤介「上海談」

鏑木誠「社交に就て」

鎌田栄吉「礼の話」

6 月 2 日午後 7 時開会 第 442 回

向軍治「牧野文部大臣の倫理演説を駁す」

山名次郎「貯蓄の新意義」

鎌田栄吉「国格論」

6 月 30 日午後 7 時開会同 10 時 20 分閉会 第 443 回

三並良「語学之教訓」

海老名輝正「明治時代之思潮」

浜重定四郎「宗教論」

鎌田栄吉「教育所感」

11月24日午後6時開会9時半閉会

小林×一「監ト云フ字ガ癩ノ種子」

村上××「犯罪ト社会」

上田敏「民謡」

鎌田栄吉「利用厚生」

政治演説ではなく学術演説（今でいう講演）が中心であることが見て取れる。

日本に近代的なスピーチを導入したのも福澤諭吉である。1874年12月に刊行された『学問のすすめ』第12編には学問にとっての口頭発表の意義が述べられている。ただし、学問的な意義だけでなく、政治的討論や社交的スピーチの重要性も語られている[松崎 1998: 2-7]。多くの人を前にして口頭で何かを表現することは江戸時代までの日本では行われてこなかった。この新しい技法は、やはり福澤が関わっていた明六社でも採用され、実際に演説会が行われた[宮武 1929: 9-11]。しかし、1875年には明六社は讒謗律や新聞条例などの政府の取り締まりの強化を受けて解散した。

1874年に福澤は慶應義塾内に三田演説会を創設し翌75年に三田演説館を建設し、口頭発表の練習場とした[松崎 1998: 37 - 89]。当初はディベートの練習が中心であったが、うまくゆかず演説が中心となった。1877年には慶應出身の尾崎行雄が演説のガイドブックを刊行した[尾崎 1877]。人前で口頭で発表する技法を身に着けることの重要性を指摘し、演説の技法（レトリック、発声法や身振り、人を感動させる方法など）を指南するものであった。来るべき議会、法廷の弁論、宗教的な説法さらに様々な社交的な発表が想定されていた。（なお、これ以降意識されるようになった演説のレトリックは近代日本語の形成に影響を与えた[Tomasi 2002].）

西南戦争後*、1878年自由民権運動が再興すると、全国で政治演説会が盛んにおこなわれるようになった。慶應義塾でも政治演説が盛んになった。塾内外に政治結社が作られ演説集会を開催した。これらの政治演説集会で政府批判が激しくなると79年ごろから演説集会の取り締まりが行われるようになり80年には集会条例が定められ演説会は許認可制となり警察が立ち合い、安寧秩序を乱す場合は即座に中止させられた。それでも政治演説集会は衰退することなく、81年（明治14年）の政変に対して82年には政治演説は最高潮を迎えた。その後自由党の解散した84年ごろから政治演説は下火になる[宮武 1929: 24,31-32, 67-70,76-78, 204-209; 大隈 1903; 小室 1903: 153-158]。

*西南戦争の前後で慶應義塾の雰囲気も大きく変わったと犬養毅は述べている。それ以前は士族の子弟が

中心であったが、それ以後は平民が中心となった。[犬養木堂先生伝記刊行会編 1939: 92, 95]。

三田演説会は集会条例や明治 14 年の政変後の政府の取り締まりを受けて、政治演説を止めて学術演説に特化することになった[松崎 1998: 210-216; 犬養木堂先生伝記刊行会編 1939: 104-105]。集会条例において、国立私立学校の生徒の政治演説会への参加の禁止が定められたことの影響が大きいと思われる。

しかし慶應義塾関係者の結社が塾外で政治演説の演説会を続ける。尾崎行雄や犬養毅も盛んに演説を行っている。犬養毅らは 82 年に短期間だけ東洋議政会を結成した（のちに立憲改進黨に合流）が、同会が開催した演説集会における犬養の演題は下記の通りである[松崎 1998: 325-354]。

- 2 月 12 日 漸進及保守党を論ず
- 2 月 26 日 帝室と政党の区別
- 3 月 26 日 当今の政策は無為より善きはなし
- 4 月 9 日 官有物貸下げを論ず
- 4 月 23 日 政治上の徳義を論ず
- 6 月 11 日 信書の自由

1880 年代後半には政治演説ブームは沈静化するが、国会が開設されると議場で演説が注目されるようになった。犬養の議会での演題には次のようなものが見られる[大日本雄弁会編 1927: 1-29]。

- 1892 年 無政府以上の悪政
- 1893 年 徳義を解せざる伊藤内閣
- 1894 年 閣員の無責任を難ず

1890 年代前半は議会における演説の舌戦が盛んであったが、日清戦争を経た 90 年代後半には演説が儀式化したという意見もある[大隈 1903]。しかし、21 世紀にはいると復活し、犬養も盛んに議会において演説を行っている。なお、大正時代に入ると一般公衆に対する演説も盛んになるようである[大日本雄弁会編 1927]。

犬養毅はファン・ボイ・チャウを支援したことで知られる[白石 1993]が、彼が演説の意義をチャウに語ったか否かを不詳である。（犬養毅のアジア観と政策論の関係に関する最新の研究として[久野 2022]）。

ファン・ボイ・チャウにアドバイスをしたもう一人の有力政治家として大隈重信が挙げられる。大隈は 20 世紀の政治演説復興を主導した人物である。大隈は早稲田大学の創設者であって慶應義塾とは関係ない。大隈は 1890 年代後半の政治演説の不調を嘆き、1902 年に早稲田大学雄弁会を創設している。1904 年に開かれた第一回公開演説会では、大隈重信が

「政治と雄弁」と題して、高田早苗が「平和と戦争」と題して演説を行っている[早稲田大学雄弁会 100 年史編集委員会 2002: 542]。早稲田大学雄弁会の演説会はその後 1908 年まで開かれていないが、大隈自身は積極的に演説を行い、チンが来日する前の月には早稲田大学の清国留学生を前に「清国留学生の覚悟」という題で演説を行っている[早稲田大学編集部編 1907: 491-509]。このような大隈の演説についてチャウやチンが噂を耳にすることはあったかもしれない。

早稲田大学雄弁会の結成について、その政治的背景を語らなければならない。集会条例は、1893 年に集会及政社法に取って変わられるが、取り締まり内容は大きくは変わらない。1900 年にこの法律が廃されて、治安警察法が作られると、政治演説集会に関する規定に重要な変更が加えられた。国立私立学校の生徒の政治結社への参加は禁止されたが、政治演説会への参加を禁止する規定はなくなった。これを踏まえて大学において早稲田大学雄弁会をつくるのが可能になったものであろう。他方、慶應大学三田演説会では、学術演説会がルーティンとなっていたため、あえて政治演説集会に戻すことはしなかったものであろう。

ファン・チャウ・チンの帰国後、ベトナムの村々で行われた演説は政治批判の色彩が強いものであった[Nguyễn 2008: 215]。政治演説という点で 1906 年当時の慶應義塾がファン・チャウ・チンにどれだけの影響を与えたかは疑問とせざるをえない。

なお、1908 年には慶應義塾においても慶應義塾学生弁論会が公認されている[慶應義塾大学弁論部編 1965: 79]。

おわりに

1906 年当時の慶應義塾が、教育面でも、財政面でも、出版面でも、宣伝面でも東京（ドンキン）義塾の直接的なモデルとなったとは考えにくい。梁啓超が紹介した 19 世紀後半の福澤諭吉や慶應義塾の情報を通して、その名前が記憶されたことは十分ありうることだ。慶應出身であり、19 世紀後半の政治演説ブームにかかわった犬養毅が、そのブームの火付け役となった慶應義塾の思い出についてチャウやチンに語ったのかもしれないが、確たる証拠は存在していない*。

とはいえ、東京（ドンキン）義塾は広義においては慶應義塾と建学精神（私立の力、独立のための文明化を重視）を一にしているともいえる**。東京（ドンキン）義塾の設立者たちは、植民地政府の公教育とは別に民間の学校を通して国家の独立、自強のために新文明の見識を普及することを目指したが、失敗した。福澤は国家の独立の基礎として人民独立の気力、とりわけ各個人の独立自尊を強調したが、東京（ドンキン）義塾では植民地支配下において国家の独立のための人々の「合力」に力点があった[阮 1989: 19-19]。

*犬養毅は梁啓超に対して、文明普及の手段に学校、新聞、演説があり、識字率が低いときは演説が有効であると述べている[區 1994: 52]。

**福澤諭吉の時代の慶應義塾が官学の優位を前にして苦戦していたことについては[神崎 2022: 39-42]。

Lockhart, B. & Duiker, J.D. 2006. *Historical Dictionary of Vietnam*. 3rd.edition Lanham: The Scarecrow press.

Nguyễn Thế Anh. 2008(1973). “Thử xét lại các nguyên nhân của phong trào kháng thuế miền Trung năm 1908.” Papin ed. *Parcours d'un historien du Viet Nam*. Les Indes Savantes

Tomasi, Massimiliano. 2002. “Oratory in Meiji and Taisho Japan: Public Speaking and the Formation of a New Written Language.” *Monumenta Nipponica* 57-1

Trần Huy Liệu. 1956. *Lịch sử 80 năm chống Pháp tập 1*.

Vinh Sinh ed. 2009. *Phan Châu Trinh and his Political Writings*. Ithaca: Cornell Southeast Asia Program

荒川研. 2002. 「東京義塾と福澤諭吉」『三田評論』 1051

犬養木堂先生伝記刊行会編. 1939. 『犬養木道伝 上』 東京：東洋経済新報社

大隈重信. 1903. 「序」 [中島 1903]

區建英. 1994. 「近代中国の福澤諭吉観：異文化理解の角度から」『中国：社会と文化』 19

尾崎行雄. 1877. 『公会演説法』 東京：丸屋善七

川本邦衛. 1987. 「南溟はるかなる義塾：東京義塾の始末」『三田評論』 880

神崎忠昭. 2022. 「三田史学会と『史学』のこれまで：戦前期を中心として」『史学』 91 - 1・2

慶應義塾編. 1960. 『慶應義塾百年史 中巻・前』 東京：慶應義塾

慶應義塾編. 1969. 『慶應義塾百年史 付録』 東京：慶應義塾

慶應義塾史事典編集委員会編. 2008. 『慶應義塾史事典』 東京：慶應義塾

慶應義塾創立 150 年写真集編纂委員会編. 2008. 『図説・慶應義塾百年小史（復刻版）』 東京：慶應義塾

慶應義塾大学弁論部編. 1965. 『慶應義塾弁論部六十年史』 東京：慶應通信株式会社

慶應義塾福澤研究センター編. 1989-98. 『福澤関係文書（マイクロフィルム）』 東京：雄松堂

阮章収（グエン・チュオン・タウ）・川本邦衛訳. 1989. 「ヴェトナム近代における福澤諭吉と慶應義塾」『三田評論』 909.

小室重弘. 1903. 『実験雄弁学』 東京：文栄閣

白石昌也. 1993. 『ベトナム民族運動と日本・アジア』 東京：巖南堂書店

大日本雄弁会編. 1927. 『犬養木堂氏大演説集』 東京：大日本雄弁会

中島気崢. 1903. 『演説活法』 東京：博文館

日本統計協会編. 2020. 『日本長期統計総覧』 東京：日本統計協会（Japan Knowledge Lib）

久野洋. 2022. 『近代日本政治と犬養毅』 東京：吉川弘文館

松崎欣一. 1998. 『三田演説会と慶應義塾系演説会』 東京：慶應義塾出版会

宮武外骨. 1929. 『明治演説史』 東京：成光館出版部

- 森永卓郎.2008.『明治・大正・昭和・平成 物価の文化史事典』東京：展望社
- 早稲田大学編集部編.1907.『大隈伯演説集』東京：早稲田大学出版部
- 早稲田大学雄弁会 100 年史編集委員会.2002.『早稲田大学雄弁会 100 年史』東京：早稲田大学雄弁会 OB 会
- 和田博徳.1967.「アジアの近代化と慶応義塾：ベトナムの東京義塾・中国の梁啓超その他について」『慶應義塾大学商学部創立十周年記念日吉論文集』